

防災ジュニアチームの手引き

～結成から育成まで～



防災ジュニアチームの手引き ～結成から育成まで～

令和6年3月発行

発行：神戸市消防局

制作：NPO 法人兵庫県防災士会



神戸市消防局

第1章 防災ジュニアチーム 結成の流れ

- P 04 防災ジュニアチームとは
- P 05 防災ジュニアチーム結成の効果
- P 06 防災ジュニアチームの立ち上げ
- P 08 防災ジュニアチームの立ち上げ事例

第2章 防災ジュニアチーム 活動の流れ

- P 10 防災ジュニアチームの活動の流れ
- P 12 防災ジュニアチームの結成式
- P 14 防災ジュニアチームの主な活動内容
- P 18 防災ジュニアチームの活動の展開
- P 20 防災ジュニアチームの修了式
- P 21 防災ジュニアチームの継続
- P 22 コラム「成長し続ける魚崎ジュニア防災チーム」
コラム「魚崎ジュニア防災チームの活動について」
コラム「ひよどり台防災ジュニアチームについて」

第3章 防災ジュニアチーム プログラム紹介

- P 26 プログラム 一覧表
- P 28 プログラム紹介
 - ① 身の回り品で防寒対策
 - ② 紙食器づくり
 - ③ ダンボールスリッパづくり
 - ④ ダンボールスツールづくり
 - ⑤ ポリ袋ポンチョづくり
 - ⑥ クロスロード
 - ⑦ 災害時のクッキング体験
 - ⑧ ハザードマップを用いたDIG
 - ⑨ 防災まちあるき / 防災マップづくり
- P 46 市民防災リーダーテキスト（実施時のポイント）
 - ① ロープワーク
 - ② 救急訓練（搬送法）
 - ③ 救急訓練（ケガの対処）

参考資料

- P 50 防災ジュニアチーム規約（例）
- P 52 防災ジュニアチーム年間活動計画（例）
- P 53 防災ジュニアチームメンバー募集チラシ（例）
- P 54 写真及び映像使用の同意書（例）
- P 55 防災ジュニアチームが指導する防災訓練計画（例）
- P 56 防災ジュニアチーム修了証（例）
- P 57 助成制度と支援制度について
- P 58 ふたば学舎「震災体験学習」について
- P 58 NHK「つくってまもろう」について
- P 59 紙食器の作り方シート
- P 60 ダンボールスツールの作り方シート

第1章

防災ジュニアチーム

結成の流れ

防災ジュニアチームとは

防災ジュニアチームについて

神戸市には、防災福祉コミュニティと小中学校が連携して、地域一体となった防災教育や訓練を実施する防災ジュニアチームがあります。

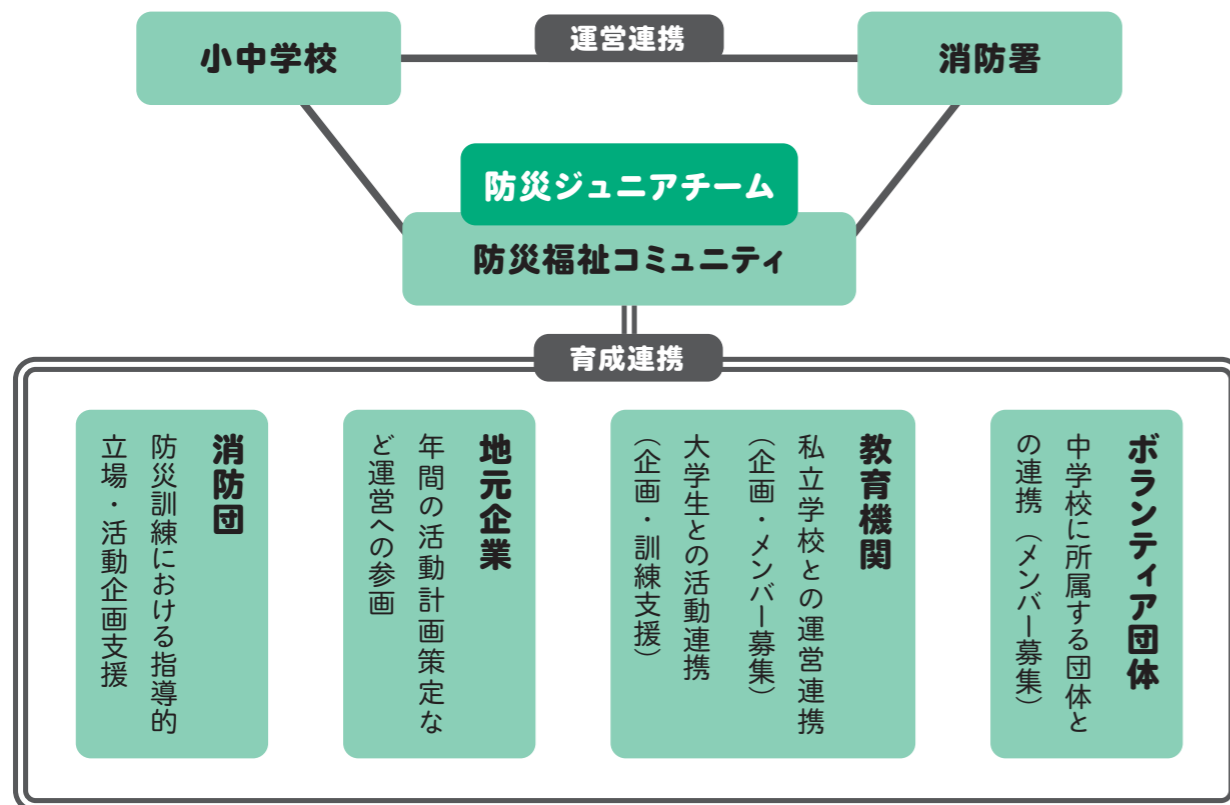
チームの活動は、基本的には、防災福祉コミュニティ、小中学校及び消防署が連携して運営していますが、地域の中には消防団、他の教育機関やボランティア団体、企業など様々な団体と連携し、活動しているチームもあります。

チームの活動を通して、防災を学び、体験することで、子どもたちは、若いうちから防災に関する正しい知識や技術に触れることにつながります。

また、子どもたちはもちろんのこと、この活動を通して、親世代を含めた幅広い世代が、防災に関心を持っていただくきっかけとなる活動であると、考えています。

防災ジュニアチームの運営及び育成支援イメージ

運営連携：防災福祉コミュニティ、小中学校及び消防署が相互に連携し、防災ジュニアチームを運営



育成連携：各種団体が防災ジュニアチームの活動及びメンバーの育成を支援

防災ジュニアチーム結成の効果

地域の防災を担う若者を継続的に育成

▶ 魚崎ジュニア防災チーム(魚崎町防災福祉コミュニティ)

魚崎中学校では阪神・淡路大震災をきっかけに始まった地域ボランティア活動「ハートプロジェクト」として毎年1年生を対象にメンバーを募集しています。卒団までの3年間で防災のマインドと知識・技術を育みます。結成から7年が経過し、卒団したOB・OGが防災ジュニアの活動に参加するなど、地域の防災を担う若者が増えてきています。防災訓練などを通じて中学生と高齢者が交流することで地域の繋がりが生まれるとともに、メンバーの家族が防災訓練に参加するようになるなど、地域の防災意識の向上にも寄与しています。



▶ 神戸市総合防災訓練の様子

高齢化が進む地域社会を支える自覚を育てる

▶ ひよどり台防災ジュニアチーム(ひよどり台防災福祉コミュニティ)

ひよどり台防災ジュニアチームは、入団希望の小学生と中学1年生で構成されています。ひよどり台中学校の1年生全員が6月の任命式でチームに加わります。このチームは、中学校の部活動と連携して防災活動に参加するのが特徴で、毎月異なる部活が計画的に活動に加わります。防災活動だけでなく、地域清掃やお祭りなどの地域活動にも参加し、中学生と地域住民との絆を深めています。この活動を通じて、中学生は高齢化が進む地域社会を支える重要な役割を果たす自覚を持つようになります。



▶ 神戸市民防災総合センターでの放水体験の様子

防災ジュニアチームの立ち上げ

立ち上げの準備と調整

防災ジュニアチームの立ち上げは、子どもたちにとっての貴重な学びの場となるとともに、地域住民の災害に対する意識を高め、地域社会に貢献する若者を育てることに繋がります。まずは、防災ジュニアチームの目標と活動のビジョンを明確にし、立ち上げへ向けて計画を立てていきましょう。以下のチェックリストを活用して、立ち上げの準備と調整を進めてください。

防災ジュニアチーム立ち上げ計画チェックリスト

▶ 初期計画段階

- 目的とビジョンの明確化**：防災ジュニアチームの目的と目指すべきビジョンを決定します。
- チームメンバーの特定**：参加対象となるメンバーの年齢層や地域を明確にします。
- チーム名称の決定**：防災ジュニアチームの名称を検討し、決定します。

▶ 協力団体・ネットワーク

- 関連団体との連携**：中学校や消防団、地域団体との連携を検討し、協力を依頼します。
- サポート体制の構築**：必要に応じて専門家やボランティアのサポート体制を整えます。

▶ 教育計画・活動計画 参考資料(年間活動計画) P52

- 教育計画**：地震、風水害、火災など、基本的な防災知識を教育する計画を立てます。
- 訓練計画**：避難訓練や応急手当の実技など、実践的な訓練を計画します。
- 年間活動計画**：年間を通じて取り組む活動の計画を立てます。

▶ 活動予算の申請 参考資料(助成制度) P57

- 神戸市消防局（防災福祉コミュニティ）の助成制度の活用を検討し、申請します。
- ひょうご安全の日推進事業助成金の活用を検討し、申請します。

▶ 規約の作成 参考資料(規約) P50

- 防災ジュニアチーム規約を作成します。

防災ジュニアチームの立ち上げ

中学校(小学校など)への協力依頼

防災ジュニアチームを立ち上げる際に中学校（あるいは小学校など）の協力を依頼するときは、いくつかの注意点を考慮する必要があります。学校は教育機関としての責任と規則があり、生徒の安全と学習環境が最優先であるため、適切なアプローチが必要です。以下のポイントを検討し、具体的かつ現実的な提案を行うことで、学校側の理解と協力を得やすくなります。また、学校のニーズや懸念に対応し、共に働く姿勢を示すことが重要です。

中学校へ依頼するときのポイント

▶ 目的と効果の明確化

学校に提案する際は、防災ジュニアチームの目的と、それが生徒や学校にどのような効果をもたらすのかを、規約を提示するなどして明示します。

▶ 安全と責任について

安全管理の計画を明確にし、活動中の生徒の安全をどのように保証するか、万が一の事態にはどのように対処するかを説明します。

▶ 生徒・保護者とのコミュニケーション

どのように保護者へ情報を提供して同意を得るか、活動にあたっての連絡を生徒ならびに保護者へどのようにして行うかを説明します。

▶ 具体的な活動計画

何を、いつ、どこで、誰が、どのように行うのかを具体的に示し、学校側が理解しやすいようにします。

▶ 評価と報告の体制

活動の効果を評価し、定期的に学校や保護者へ報告する体制を明示します。

▶ 教職員との連携

教職員の協力やサポートが必要な場合、どのように連携し協力を得るか計画し、協力を要請します。

防災ジュニアチームの立ち上げ事例

歌敷山中学校防災ジュニアチーム(霞ヶ丘防災福祉コミュニティ)

地域が消防署からの提案を受け、垂水区で初めての防災ジュニアチームを作る活動として、令和3年に始動しました。中学校も結成に積極的でしたが、コロナ禍のため結成は令和5年になりました。チームロゴは美術部が作成するなど、学校と協力し準備が進められました。中学校を通じて1年生と2年生からメンバーを募り、応募のあった生徒とその保護者に向けた説明会を開き、活動について説明しました。メンバーへの連絡は、中学校のメール配信システムを活用されています。



▶ 学習会でロープ結索訓練を行っている様子

鷹匠中学校防災ジュニア(高羽防災福祉協議会)

地域が防災ジュニアチームという全国的な取り組みを消防署から聞き、今後の取り組みに活かそうと考えたのがきっかけ。20年以上も地域と中学校とが連携した防災訓練が行われ、信頼関係が構築されていたことから、防災ジュニアチーム立ち上げの調整はスムーズに進みました。地域と消防署、学校を交えた打ち合わせを複数回実施し、規約や活動内容、目的や活動を決定。結成式は中学校で行い、2年生全員を防災ジュニアとして任命しました。メンバーへの連絡などは中学校を通じて行われています。



▶ 高羽防災福祉協議会防災訓練の様子

第2章

防災ジュニアチーム

活動の流れ

防災ジュニアチームの活動の流れ

1年間の活動スケジュール(例)

年間スケジュールは、防災ジュニアチームの1年間の活動を計画し、実施するためのガイドラインです。以下の内容を参考にして、地域の実情やチームの特性に合わせて調整し、効果的かつ計画的に活動を進めましょう。

年度初め 年間活動計画の作成
参考資料(年間活動計画) P52

年間を通じた活動内容と目標を定めます。

- 前年度の活動を振り返り、成功点と改善点を洗い出します。
- 一年間で実施したい活動のリストを作成し、それぞれの目的と目標を明確にします。
- 活動計画書を作成し、必要なリソース(資機材・予算など)と手順を記載します。

4~5月 中学校・消防署などとの調整

地域の関連機関との協力体制を築き、支援と資源を確保します。

- 中学校や消防署、協力団体などと連絡を取り、会議を設定します。
- 年間計画と目標を共有し、協力できる内容について話し合います。

4~5月 活動助成金の申請
参考資料(助成制度) P57

計画に沿って、活動に必要な資金を確保します。

- 助成金の要件を確認し、必要な書類を集め、申請書を作成します。
- 申請期限内に申請書を提出し、必要に応じてフォローアップを行います。

6~7月 メンバー募集
参考資料(募集チラシ、同意書) P53,54

今年度の活動メンバーを募集します。

- 募集案内を作成し、学校、地域の連絡網などを通じて、対象の生徒に募集をかけます。
- 応募者には、参加の意思と保護者の同意を確認し、活動時の撮影の同意を得られるようにします。

防災ジュニアチームの活動の流れ

7~8月 結成式
結成式の準備と内容 P12

防災ジュニアチームの結成式を行い、活動への意気込みを高めます。

- 結成式の日時、場所、内容を計画します。
- メンバー、保護者、地域の関係者を招待し、チームの目標と年間計画を共有します。
- 式典と併せて、活動や交流の機会を設け、チームビルディングを図ります。

8~2月 活動
防災ジュニアチームの活動内容例 P14

メンバーの防災知識と防災意識を高め、防災訓練などの地域活動に参加・貢献します。

- **研修会・見学会**: 専門家による講演やワークショップ、関連施設への見学などを通じて知識を深めます。
- **防災訓練**: 地域の防災訓練に参加し、実践を通じて災害時の対応を学びます。
- **大会への参加**: 全国少年消防クラブ交流大会などに参加し、学んだ技術を披露します。

2~3月 修了式
修了式の準備と内容 P20

一年間の活動を振り返り、メンバーの成長を称えます。

- 修了式の日時、場所、内容を計画します。
- メンバーの成果を発表する機会を設け、表彰や感謝の言葉を伝えます。

年度末 活動の継続
指導者交代時の引き継ぎ P21

指導者交代時には、スムーズに活動を継続するための引き継ぎを行います。

- 引き継ぎの計画を立て、引き継ぎの資料を作成します。
- 交代までの移行期間を設けて、活動やミーティングを通じて後任の指導者に引き継ぎます。

防災ジュニアチームの結成式

結成式の準備と内容

結成式は、防災ジュニアチームのメンバー、保護者、関連団体が集まり、チームの目的と活動について共有する重要な機会です。また、式典に併せてメンバーの防災知識や防災意識を高める活動や交流の機会を設けることで、チームビルディングを図り今後の活動につながります。以下を参考にして、結成式を計画しましょう。

防災ジュニアチーム結成式

▶ 結成式の準備

1. **日時と場所の決定**：参加者が参加しやすい日時と場所を選びます。
2. **招待リストの作成・送付**：招待するべき人々のリストを作成し、招待状を送付します。
3. **プログラムの計画**：進行スケジュールを計画し、時間配分を決定します。
4. **役割分担とリハーサル**：結成式の各役割を割り当て、必要に応じてリハーサルをします。

▶ 結成式の内容案

1. **開会の挨拶**：代表者が開会の挨拶を行い、参加者を歓迎します。
2. **目的と活動計画の紹介**：どのような目的で結成されたかと活動内容を説明します。
3. **スピーチ**：学校代表者、特別ゲストなどがチーム結成を祝い、言葉を述べます。
4. **メンバー紹介**：メンバーを紹介し、それぞれ（または代表者）が挨拶をする機会を設けます。
5. **ユニフォーム授与**：オリジナルの帽子などのユニフォームをメンバーに渡します。
6. **防災活動**：防災講演、防災ワークショップ、消火器訓練などを実施します。
7. **閉会の挨拶**：結成式の締めくくりとして、今後の活動への期待と感謝の言葉を述べます。
8. **写真撮影**：チーム結成の記念写真を撮影します。

防災ジュニアチームの結成式

中学校で結成式を実施する事例

▶ 鷹匠中学校防災ジュニア（高羽防災福祉協議会）

中学校2年生全員を対象に、体育館で防災ジュニアの結成式を行い、正式に任命しました。この式で、高羽防災福祉協議会の会長は、生徒たちに防災ジュニアとしての自覚と責任を持つことを期待する旨を伝えました。活動期間は、結成式が行われる9月から翌年の9月までの1年間です。毎年9月には、3年生が2年生に防災ジュニアの役割を引き継ぐための結成式と修了式を行う予定です。



地域施設で結成式を実施する事例

▶ 歌敷山中学校防災ジュニアチーム（霞ヶ丘防災福祉コミュニティ）

中学校で配布した募集チラシに応えた11名（1年生5人、2年生6人）を対象として、夏休みの8月に霞ヶ丘地域福祉センターで歌敷山中学校防災ジュニアチームの結成式を行いました。式には防災福祉コミュニティ、ふれあいのまちづくり協議会、歌敷山中学校、区役所、消防団、消防署が参加し、来賓の祝辞やチーム代表の決意表明がありました。新メンバーには任命書と中学校の美術部がデザインしたロゴ入りの帽子が授与されました。活動は3月末の修了式まで続きます。



防災ジュニアチームの主な活動内容

防災ジュニアチームの活動内容例

指導者は、メンバーの防災知識と技術、防災意識の向上を促すとともに、地域内での防災活動への参加を通じてメンバーの成長と地域住民の防災意識の向上を図る活動を計画します。活動の機会は防災ジュニアチーム単独の活動だけでなく、学校行事や地域行事などを柔軟に併せながら、メンバーの育成と地域防災力向上のための活動計画を立てましょう。以下の活動事例を参考に、地域と学校の実情に合ったプランを考えましょう。

防災知識・技術の向上

メンバーが防災に関する知識と実践的な技術を身につけることで、自身と地域の安全を確保できるようにします。

▶ 施設見学会の実施

消防署、気象台、危機管理センターなど、防災に関連する施設を訪れ、現場での対応や設備について学びます。職員から話を聞き、質問やディスカッションを通じて理解を深めることで、これらの訪問は、子供たちが防災の重要性を実感し、具体的な行動を学ぶ機会となります。



東灘区の防災ジュニアチーム

東灘区内にある防災ジュニアチーム4チームが東灘消防署を訪れ、消防庁舎の見学やがれき救助訓練を体験しました。



名倉防災キッズ

小学生の防災ジュニアメンバーが「防災教育ツアー」として、防災福祉コミュニティメンバーと共に、危機管理センターを見学。

防災ジュニアチームの主な活動内容

▶ 研修会や勉強会の実施

本冊子のプログラム案などを基に、防災知識と技術の向上を目指す勉強会や研修を計画します。語り部による講話や、BOKOMI サポーター制度を活用した専門家による学習の機会を設けることもできます。参考資料(支援制度) P57



歌敷山中学校防災ジュニアチーム

防災士と消防職員を講師に招き、避難について学ぶワークショップや消火器の使い方、ロープワークを学びました。



向洋ジュニア防災チーム

阪神・淡路大震災に関する学習として、防災福祉コミュニティの会長や消防職員から当時の体験談などの講話を受けました。



桜が丘ジュニア防災チーム

「市民防災リーダー」研修プログラムとして、西消防署にてロープ結索や消火器の実践的な訓練を受講し、技能を習得しました。



兵庫中学校防災ジュニアチーム

防災学習として地震体験、消火器訓練、簡易トイレの作り方、給水訓練など、消防職員指導のもと、実践的な体験を行いました。

防災ジュニアチームの主な活動内容

地域活動への参加

地域コミュニティとの連携を強化し、実際の防災活動へ積極的に参加することで、学んだ知識と技術を実践します。

▶ 地域の防災訓練への参加

地域の総合防災訓練やブロック訓練に参加し、チームとしての役割を持って、地域住民と協力しながら訓練を行います。



東川崎防災ジュニアチーム

中央区の総合訓練に参加し、簡易担架やロープ結索を参加者に指導しました。



ポークアイ防災ジュニアチーム

総合防災訓練で学生消防団の指導を受け、消防用ホースの取扱方法などを体験しました。



吉田中学校防災ジュニアチーム

文化財防火デーに伴う消防訓練に参加し、バケツリレー訓練を行いました。



夢野中学校防災ジュニアチーム

兵庫区内4防コミの合同防災訓練に参加し、三角巾の使い方などを体験しました。

防災ジュニアチームの主な活動内容

▶ その他の地域活動への参加

地域の清掃活動や福祉施設・児童館などの行事など、様々な地域活動に参加し、地域の防災意識を高める活動を支援します。



ひよどり台防災ジュニアチーム

地域の児童館に防災ジュニアチームが出向き、子どもたちに防災講座を行っています。



長田連合防災ジュニアリーダー

室内小学校で行われた地域の餅つき大会に参加し、餅をつくなどの活動に協力しました。

地域防災訓練で指導者として活躍する事例

▶ 歌敷山中学校防災ジュニアチーム(霞ヶ丘防災福祉コミュニティ)

歌敷山中学校防災ジュニアチームの生徒たちは、地域の防災訓練で指導者として活躍することを目指して、2回の事前防災学習に参加しました。この学習では、消防士や防災士から消火器の使用方法、ロープの結び方、ダンボールで椅子を作る方法などを学び、指導する際のポイントも教わりました。地域の防災訓練では、これらを住民に教える役割を担いました。

参考資料(防災訓練計画) P55



防災ジュニアチームの活動の展開

防災ジュニアチームの活動の展開例

防災ジュニアチームの活動をさらに充実・展開していくには、他の地域や団体と連携した活動や、競技大会への参加が効果的です。これらの活動は、チームの活動を披露することでメンバーのモチベーションを高めるとともに、メンバーが視野を広げ、多様な経験を積む貴重な機会となります。

他地域・他団体との連携

知識の共有、様々な人との交流を通じて、防災活動の質を向上させます。

▶ JICA視察の受け入れ



JICA研修員との交流

東灘区内の防災ジュニアメンバーとネパールのJICA研修員とでバケツリレー訓練を実施。

▶ 他チームとの交流



BOKOMIフェスタ

市内の防災ジュニアチーム同士が、防災競技イベントを通じて交流。

中学校行事での実践

中学校防災訓練でメンバーが指導者となることで、メンバーのやる気を高めるとともに学校全体の防災意識の向上に繋がります。

住吉中学校ジュニア防災リーダー

ジュニア防災リーダーのメンバーが、授業において、消火器取扱い訓練の指導を行いました。

魚崎ジュニア防災チーム

ジュニア防災チームのメンバーが、学校行事の津波発生時の水平避難訓練において、ビブスを着用して先導し、避難方法を指導しました。

防災ジュニアチームの活動の展開

競技大会への参加

競技大会への参加を通じて、メンバーのモチベーションを高め、実践的なスキルを競い合い、他チームから学びます。

▶ 全国少年消防クラブ交流大会

競技内容に応じたトレーニングや準備を計画し、大会へ参加します。



出初式への参加

毎年年初に実施する神戸市消防出初式に参加して防災ジュニアチームの活動を披露しています。

▶ 神戸市消防出初式

住吉中学校ジュニア防災リーダーが救急救助訓練で、通報、避難誘導やCPRを実施。



全国少年消防クラブ交流大会

全国の少年消防クラブが集い、消防の実践的な活動を取り入れた訓練などを通じて他の地域の少年消防クラブ員と親交を深めることを目的として、消防庁が主催する「全国少年消防クラブ交流大会」が開催されています。この大会では、クラブ紹介や、消防ホースの延長やロープ結索などを取り入れたチーム対抗の競技大会が行われます。神戸市の防災ジュニアチームも、訓練を積んで参加しています。

▶ 過去の開催実績及び神戸市チームの出場状況

| 年度 | 開催地 | 参加チーム |
|----------------------|---------|---|
| H24 | 岩手県矢巾町 | ※ 西日本ブロック大会 |
| H25 | 徳島県徳島市 | ※ 東日本ブロック大会 |
| 平成26年度以降、全国大会として位置づけ | | |
| H26 | 徳島県徳島市 | 中止（台風の影響により） |
| H27 | 徳島県徳島市 | ひよどり台防災ジュニアチーム |
| H28 | 宮城県南三陸町 | ひよどり台防災ジュニアチーム |
| H29 | 徳島県徳島市 | ひよどり台防災ジュニアチーム 東川崎防災ジュニアチーム |
| H30 | 千葉県舞浜市 | ひよどり台防災ジュニアチーム 東川崎防災ジュニアチーム 魚崎ジュニア防災チーム 西落合防災ジュニア隊 |
| R1 | 徳島県徳島市 | ひよどり台防災ジュニアチーム 東川崎防災ジュニアチーム 魚崎ジュニア防災チーム |
| R2-4 | 鳥取県米子市 | 中止（感染症の感染拡大防止のため） |
| R5 | 鳥取県米子市 | 魚崎ジュニア防災チーム |
| R6 | 兵庫県神戸市 | |

防災ジュニアチームの修了式

修了式の準備と内容

修了式は、防災ジュニアチームの一年間の活動の締めくくりであり、メンバーが一年間の努力を振り返るとともに、メンバーの成長と貢献を称える重要なイベントです。適切な準備と心温まる内容で、メンバー一人ひとりが自分たちの成長を実感できるように、以下を参考にして、修了式の準備を計画しましょう。

防災ジュニアチーム修了式

▶ 修了式の準備 参考資料(修了証) P56

1. **日時と場所の決定**：全メンバーと保護者が参加しやすい日時と場所を選びます。
2. **招待リストの作成・送付**：招待するべき人々のリストを作成し、招待状を送付します。
3. **プログラムの計画**：進行スケジュールを計画し、時間配分を決定します。
4. **記念品や表彰状の準備**：メンバーや関係者に対する記念品や表彰状を準備します。
5. **役割分担とリハーサル**：修了式の各役割を割り当て、必要に応じてリハーサルをします。

▶ 修了式の内容案

1. **開会の挨拶**：代表者が開会の挨拶を行い、参加者を歓迎します。
2. **活動報告**：一年間の活動概要を報告し、主な成果やイベントについて振り返ります。
3. **ゲストスピーチ**：学校関係者や協力者などから激励の言葉をいただきます。
4. **メンバースピーチ**：メンバーが交代で、学んだこと、感じたことなどについて発表します。
5. **表彰式**：メンバーや、支援してくれた関係者に対して表彰状や記念品を贈呈します。
6. **閉会挨拶**：閉会の挨拶を行い、次年度の活動への期待を語ります。
7. **写真撮影**：修了の記念写真を撮影します。
8. **交流会**：参加者が交流できる懇親会を設け、情報交換や感想の共有を行います。

防災ジュニアチームの継続

指導者交代時の引き継ぎ

防災ジュニアチームの指導者が交代する際は、スムーズな移行に向けて、いくつかの重要なポイントを考慮する必要があります。計画的に引き継ぎを行い、新旧の指導者間での知識と経験の共有を図ることが、防災ジュニアチームの活動継続に繋がります。

※学校長、先生が交代する場合は以下のポイントに加え、防災ジュニアチーム立ち上げの際の中学校(小学校)などへの協力依頼に記載された内容も、参考にしてください。 中学校(小学校など)への協力依頼 P07

指導者交代時のポイント

▶ 文書化された情報の引継ぎ

活動計画、メンバーリスト、連絡先、過去のイベント報告、重要な資料など、文書化された情報を整理し、新しい指導者に引き継ぎます。

▶ 役割の明確化・説明

新しい指導者が担当する具体的な役割を明確にし、チームの目的、活動内容、使用するツールや手法について、詳細に説明します。

▶ 移行期間の設定

前任の指導者と後任の指導者が一定期間一緒に活動することで、スムーズな移行を促します。この期間、役割を徐々に移譲し、必要な知識や経験を共有します。

▶ コミュニケーションの強化

学校、地域団体、関係者などとのコミュニケーションを維持するため、コミュニケーションを図る際のポイントを伝える、新しい指導者を紹介するなどして、良好な関係を築けるよう支援します。

▶ 前指導者の役割

可能であれば、前の指導者がアドバイザーとして時々チームを訪れ、新しい指導者を支援する役割を持つことを検討します。

成長し続ける魚崎ジュニア防災チーム



魚崎町防災福祉コミュニティ
明珍信宏副会長

私は、魚崎町防災福祉コミュニティの副会長の明珍信宏といます。2012年保育所と魚崎中学校2年生が津波水平避難訓練を行ったときに、中学生が保育所の子達と手をつないで避難誘導を実施しました。そのとき、これからも子供たちの避難訓練を支援して欲しいと感じたことと、地域の防災訓練を行うと若い方々の参加が見込めず将来に不安を抱えていたこともあり、防災ジュニアチームを立ち上げたいと思いました。

さらに何年か先に大災害が確実に起こる！といわれていることから、将来の魚崎地域での指導者を育てたいと、中学校にて校長・教頭先生と話し合い2017年春に魚崎ジュニア防災チーム（以下、ジュニアチームという）を立ち上げることができました。

ジュニアチームの活動としては地域の防災訓練などの参加はもちろん、2018年から全国少年消防クラブ交流大会に参加し、ここ数年も参加しております。全国の防災が好きな子供たちと実践を交えた競技や交流会を実施し、参加した子達も楽しく防災を学ぶことができます。

ジュニアチームの子達には、1.入団にあたって、勉強やクラブ活動はおろそかにしない。2.命を大切に！自分の命は自分で守る。3.災害時には、率先避難者となり逃げる行動をとる。周囲を動かす。4.家族と自宅での災害時対応について、話し合う。この4つのことを意識して入団し、活動してもらっております。ゆくゆくは地域での活動リーダーになってほしいと願っております。

魚崎中ジュニア防災チームの活動について



神戸市立魚崎中学校
大前稔校長

私は、魚崎中学校校長の大前稔と申します。魚崎中学校の学校教育目標の柱の一つに「防災教育・命の教育」が掲げられています。魚崎ジュニア防災チームは2017年に発足し、魚崎町防災福祉コミュニティ、東灘消防署の指導の下、規律、消火訓練、救命講習、防災学習の受講などに取り組んでいます。中学校入学時に、入団希望者を募り、防災福祉コミュニティ主催の入団式を以て活動が始まります。他の地域の防災ジュニアとの合同訓練、全国の消防クラブとの交流大会、魚崎地域の災害時避難訓練、神戸市総合防災訓練、出初式・放水大会などが一年間の主な活動です。そして、中学校卒業時には、入団式と同じく地域の主催で卒団式を行っていただきます。

校内では、日々の練習の成果を全校生徒の前で発表、防災に関する文化祭展示の作成、各学年で取り組む防災学習の際には、率先して活動のリーダーとなり、全校生の防災意識を高めることに大いに貢献しています。リーダーたちのはつらつと活動する様子は、他の生徒に対して大いに刺激となり、防災学習・命の学習を通して、コミュニケーション力を高め、人権感覚を磨くことにも大いに役立っています。

今後も、この活動を通して魚崎中学校が地域の核となることを願っています。

ひよどり台防災ジュニアチームについて



ひよどり台防災福祉コミュニティ
明石民雄会長

私は、2016年からひよどり台防災福祉コミュニティの代表と地域内のひよどり台防災ジュニアチーム（以下、「ジュニア」という）のお世話をさせて頂いている 明石民雄と申します。

2001年1月、我が地域に防災福祉コミュニティ（以下、「防コミ」という）が設立され、その後すぐに、地域の安全・安心には子供たちの力が必要との認識のもと、任意参加によるジュニアの防災活動が始まりました。結成当時は希望者をつのり、小学生12名、中学生44名のチームでしたが、結成から数年後には中学生全員がジュニアのメンバーとして活動することとなりました。活動も当初は防コミの活動を支援する取組でしたが、参加する子供たちからの意見も聞きつつ、順次改善していきました。現在では年間の活動計画が当初に計画され、また、学校の理解もあり定期的な活動になっています。

主な活動は、「消防技術を養う」、「地域行事の輪に入る」、「オレンジリング（災害

時要援護者支援を目的に実施されている認知症サポーター養成研修受講の証）を取得し、お年寄を見守る」などの内容です。

これらの活動には学校との調整が必要ですが、中学生の活動するグループがそれぞれの部活動のクラブ単位なのと年間計画があるおかげで、調整はしやすくなっています。

また、近年では消防局より声をかけていただき「JICA研修のお手伝い」や「防災を考えるつどい」そして「消防出初式への参加」などの特別メニューにも参加し、幅を持たせた活動をしています。

今後としては、ジュニアのメンバーの中から防災について教えることができる指導者を増やすことを目標に活動していきたいと考えています。2023年の11月に防災の専門家の支援を頂き、ジュニアが児童館で講師となって「防災教室」を開催し、館長から絶大なる好評を頂きました。今後も活動の工夫をしながら、子供たちの成長を見守っていききたいと思います。

第3章 防災ジュニアチーム プログラム紹介

プログラム一覧表

プログラムを難易度別および分野別に整理しています。難易度は★が取り組みやすく、★★★は準備や知識が必要となるプログラムです。活動計画を立てる際などに、メンバーの学年やスキル・知識、興味に応じて、適切なプログラムを選択する参考としてください。指導者だけで実施が難しいプログラムに関しては、消防署や外部講師のサポートも検討しましょう。 [参考資料\(支援制度\) P57](#)

市民防災リーダーテキスト

訓練メニューの記載された「市民防災リーダーテキスト」は、神戸市 HP で公開しています。

<https://www.city.kobe.lg.jp/a10878/bosai/shobo/bokomi/document/reader-text.html>



* 防災ジュニアチームメンバーが指導者役として活躍できるプログラム

*のついたプログラムは、チームメンバーが指導者役となり、地域の防災訓練などで実施しやすいものです。事前にプログラムについて指導を受けたメンバーが、地域の防災訓練や学校の防災授業の中で指導者として地域住民や学生に伝えます。メンバーにとって大変学びがあり、地域や学校に活気をもたらすため、積極的に実施してみてください。

[地域防災訓練で指導者として活躍する事例 P17](#)

[参考資料\(防災訓練計画\) P55](#)

| 難易度 | 視察プログラム | 座学プログラム | 防災体験プログラム |
|-----|---|---|---|
| ★ | <ul style="list-style-type: none"> ● 消防署 施設見学会の実施 P14 | <ul style="list-style-type: none"> ● 出前講座 研修会や勉強会の実施 P15 ● 語り部講話 研修会や勉強会の実施 P15 | <ul style="list-style-type: none"> ① 身の回り品で防寒対策 プログラム紹介 P28 ① ロープワーク 実施時のポイント P46 市民防災リーダーテキスト |
| ★★ | <ul style="list-style-type: none"> ● 人と防災未来センター 施設見学会の実施 P14 ● ふたば学舎「震災体験学習」 参考資料(震災体験学習) P58 | <ul style="list-style-type: none"> ● ダイレクトロード 市民防災リーダーテキスト ⑥ クロスロード プログラム紹介 P38 | <ul style="list-style-type: none"> ⑦ 災害時のクッキング体験 プログラム紹介 P40 ● 災害模擬体験(VR体験など) 市民防災リーダーテキスト ● 水防訓練(土のうづくり体験など) 市民防災リーダーテキスト |
| ★★★ | | <ul style="list-style-type: none"> ⑧ ハザードマップを用いたDIG プログラム紹介 P42 | <ul style="list-style-type: none"> ⑨ 防災まちあるき/防災マップづくり プログラム紹介 P44 |

| 難易度 | 消火プログラム | 救出・救助プログラム | 防災工作プログラム |
|-----|---|--|--|
| ★ | <ul style="list-style-type: none"> ● 消火器訓練Ⅰ(水消火器)* 市民防災リーダーテキスト ● バケツリレー訓練 市民防災リーダーテキスト | | <ul style="list-style-type: none"> ② 紙食器づくり* プログラム紹介 P30 ③ ダンボールスリッパづくり* プログラム紹介 P32 ④ ダンボールスツールづくり* プログラム紹介 P34 ⑤ ポリ袋ポンチョづくり* プログラム紹介 P36 |
| ★★ | <ul style="list-style-type: none"> ● 小型動力ポンプ取扱訓練 市民防災リーダーテキスト | <ul style="list-style-type: none"> ② 救急訓練(搬送法) 実施時のポイント P47 市民防災リーダーテキスト ③ 救急訓練(ケガの対処) 実施時のポイント P48 市民防災リーダーテキスト | <ul style="list-style-type: none"> ● NHK「つくってまろう」 参考資料(つくってまろう) P58 |
| ★★★ | <ul style="list-style-type: none"> ● 消火器訓練Ⅱ(粉末消火器) 市民防災リーダーテキスト | <ul style="list-style-type: none"> ● 要援護者の特徴と支援要領 市民防災リーダーテキスト ● 道具を使った垂直避難 市民防災リーダーテキスト | |

身の回り品で防寒対策

プログラムのねらい

寒い時期に災害が発生し、電気・ガスが止まった場合、暖房器具が使いません。避難所などでの寒さ対策として、身近にある物を使った防寒の知恵・技を学びます。

実施の目安

| 難易度 | 時間 | 場所 | 参加人数 | スタッフに求められるもの |
|-----|------|-------|--------|--------------------------|
| ★ | 40分～ | 屋内／屋外 | 3～6人／班 | 特になし ※事前にプログラムを確認しておく |

ポイント

- ▶ 寒い時期に災害が発生し、ライフライン（電気・ガスなど）が止まった状況を想定し、身近にある物を使って暖を取る方法を教えます。
- ▶ 新聞紙やラップ、ビニール袋などを使った防寒対策を考え、実際に体感することで、体温を逃さないようにして体を暖める仕組みを教えます。



使用するもの

| 準備品 | 数 | 備考 |
|--------------------------------------|-----|----------------------|
| <input type="checkbox"/> 新聞紙 | 必要数 | |
| <input type="checkbox"/> 食品包装用ラップ | 必要数 | 30cm程度の幅の広いタイプ |
| <input type="checkbox"/> ポリ袋（45ℓ） | 必要数 | 透明タイプのほうが中の新聞紙が見えて良い |
| <input type="checkbox"/> 傘袋、細長いビニール袋 | 必要数 | |
| <input type="checkbox"/> ビニール袋 | 必要数 | |
| <input type="checkbox"/> はさみ | 必要数 | |
| <input type="checkbox"/> ビニール紐 | 必要数 | |
| <input type="checkbox"/> ガムテープ | 必要数 | |

実施内容

▶ 身の回り品で寒さをしのぐ方法を考えてみよう！

- ① 導入として、災害でライフラインが止まると暖房器具が使えなくなるという状況を説明します。
- ② 「新聞紙」「ポリ袋」「ラップ」を使って、寒さを防ぐ方法を班ごとに考えてもらいます。はさみやテープなどの道具は使っても構いません。
- ③ そして、班ごとにどのような方法を考えたか、発表し合います。



▶ 体温を逃がさないポイントを教える

- ① **ポイント**：体と外気の隙間に体温で温まった空気の層を確保することで、体の周りを暖かい状態に保つ。〈例〉新聞紙をくしゃくしゃにして服の間に詰め、空気の層をつくる。
- ② **ポイント**：暖まった空気を冷まらず逃さないように、風を通さない素材で体を覆う。〈例〉レインコートを羽織り、袖や襟元をしっかり閉める。
- ③ ポイントを伝えたら、再度防寒の方法を考えてもらい、先程との違いを比べてもらう。
- ④ 解答例を提示し、実際に解答例のいくつかを作ってもらい体験してもらう。

▶ 解答例①：新聞紙とラップでつくる腹巻

- ① 新聞紙をくしゃくしゃにします。（空気の層ができ暖かい空気がたまりやすくなります。）
- ② くしゃくしゃにした新聞紙2枚を2つ折りにして、おなかのあたりに巻きます。
- ③ その上からラップを巻きつけて固定します。



▶ 解答例②：新聞紙とポリ袋でつくる防寒着

- ① ポリ袋の上部（頭）と左右（腕）の3か所を切ります。
- ② 切り取った穴に頭と手を通し、服の上からかぶります。
- ③ ポリ袋と服の間に、くしゃくしゃにした新聞紙を詰めたビニール袋を詰めます。
- ④ 腰あたりをビニール紐を結んで縛っておけば、空気がたまり防寒着のできあがり。



▶ 解答例③：新聞紙とポリ袋でつくるマフラー

- ① 新聞紙をくしゃくしゃにして、細長い袋に新聞紙を入れ、マフラー代わりにします。
- ② **ポイント**：首には太い動脈が走っており、温めることによって全身に暖かい血液をめぐらせることができます。



紙食器づくり

プログラムのねらい

災害時には食器棚が転倒し食器が割れたり、水道が止まって食器が洗えなくなります。新聞紙や使わなくなったチラシなどを利用して簡易な食器を作る方法を教えます。

実施の目安

| 難易度 | 時間 | 場所 | 参加人数 | スタッフに求められるもの |
|-----|------|-------|------|--------------------------|
| ★ | 20分～ | 屋内／屋外 | 数人～ | 特になし ※事前にプログラムを確認しておく |

ポイント

- ▶ 地震の揺れで食器が割れてしまった場合に、新聞紙など身近にある物を使って簡易な食器を作る知恵を教えます。
- ▶ 避難生活では水は貴重であり、食器を少量の水で洗う工夫や、ラップをかけて食器を汚さない工夫などを伝えます。



使用するもの

| 準備品 | 数 | 備考 |
|-------------------------------------|-----|-----------------|
| <input type="checkbox"/> 新聞紙やチラシ | 必要数 | |
| <input type="checkbox"/> 食品包装用ラップ | 必要数 | 30cm程度の幅の広いタイプ |
| <input type="checkbox"/> ビニール袋 | 必要数 | 箱型のお皿が入る程度の大きさ |
| <input type="checkbox"/> ウェットティッシュ | 必要数 | 新聞紙で手が汚れたときに使用 |
| <input type="checkbox"/> 紙食器の作り方シート | 必要数 | 参考資料のシートを印刷して使用 |

実施内容

▶ 震災時の状況説明

- ① 写真などの資料を見せながら、阪神・淡路大震災を事例にして、ライフラインが止まったときの避難生活が困難な状況であることを説明します。
- ② 震災時、食器棚が倒れ、食器が割れてしまったり、水で洗えなくなったりした場合に、新聞紙やポリ袋などで作った簡易な食器がとても役に立つことを教えます。

▶ 紙食器づくり

- ① 新聞紙やチラシを使った食器の作り方を説明しながら、一緒に紙食器を作成します。時間に合わせて、コップ型や箱型などの食器を作成します。
- ② 完成した食器にラップやポリ袋などをかぶせ、使用するときのアイデアを伝えます。



▶ 紙食器を使用

- ① バーベキューなどアウトドアで使ったり、普通の生活でお菓子を入れて使うなど、日常生活での活用方法を説明します。
- ② 実際に自分で作った紙食器を活用します。非常食や炊き出しなどを実際に紙食器で食べる体験をしてみましょう。
- ③ **ポイント**：熱い汁物などを入れる際には、紙食器を二重にする、ダンボールのお盆にのせるなどの工夫をし、ヤケドには十分注意しましょう。



▶ まとめ

- ① 災害時にはこのような紙食器のほか、普通の食器にラップを被せて使い、食器を洗わずに済むような工夫をしていたことを話します。
- ② 水が使えない生活で、他にどんなことが困るか、どのような備えが必要かなどを話し合ってもらい、出た意見を発表してもらいます。
- ③ 新聞紙やチラシだけでなく、他にどんなものが食器代わりに使えるか、考えてもらいます。(例) ペットボトルや牛乳パック、アルミホイルを活用するなど



▶ プログラムの展開例

- ① 様々な困難を創意工夫で乗り越える力を養うために、最初は作り方を提示せず、まず自分たちで考えて作ってもらっても良いでしょう。
- ② 地域の防災訓練での炊き出しなどに合わせて、実際に紙食器を使って食べてもらえば、より実践的なプログラムになります。
- ③ メンバーに事前に紙食器作りの指導を行い、地域の防災訓練でこの技術や知恵を地域住民に教える役割を担わせると効果的です。



ダンボールスリッパづくり

プログラムのねらい

災害時、避難所の床が汚れていたり冷たかったりする問題を解決するために、ダンボールなど手軽な素材を使って衛生的で暖かい簡易スリッパの作り方を学びます。

実施の目安

| 難易度 | 時間 | 場所 | 参加人数 | スタッフに求められるもの |
|-----|------|-------|------|--------------------------|
| ★ | 20分～ | 屋内／屋外 | 数人～ | 特になし ※事前にプログラムを確認しておく |

ポイント

- ▶ 災害時における身近にある素材を活用する知恵を教えます。避難所に物資を入れて届くダンボールを使って、簡易スリッパを作る技術を伝えます。
- ▶ ダンボールスリッパづくりを通して、避難所生活における課題（衛生面での問題、寒さの問題など）を伝えます。



使用するもの

| 準備品 | 数 | 備考 |
|------------------------------------|-----|-----------------------------------|
| <input type="checkbox"/> 段ボール | 必要数 | 40cm × 45cm 程度のダンボール 1 枚で片足分 |
| <input type="checkbox"/> 新聞紙 | 必要数 | 見開き 1 枚で片足分 |
| <input type="checkbox"/> カッター、はさみ | 必要数 | |
| <input type="checkbox"/> ガムテープ | 必要数 | |
| <input type="checkbox"/> 動画を再生する機材 | 必要数 | 「つくってまろう」の作り方動画を再生（スマートフォンなどでも可能） |

実施内容

▶ 震災時の状況説明

- ① 写真などの資料を見せながら、阪神・淡路大震災を事例にして、ライフラインが止まったときの避難所生活の困難な状況に関して説明します。
- ② 避難所での生活において、スリッパが衛生面や防寒に役立ったことを伝え、ダンボールや新聞紙などの身近にある物を活用してスリッパが作れることを教えます。

▶ ダンボールスリッパづくり

- ① ダンボールを足に合わせて丁字型に切る。
- ② 足の甲をおおうように折り込み、テープで固定する。
- ③ 新聞紙で包む。
- ④ **ポイント**：NHK「つくってまろう」の作り方動画を見せながら、作成すると良いでしょう。



参考資料 P00

▶ ダンボールスリッパを使用

- ① 作成したダンボールスリッパを履いて、使い心地を体験します。実際に避難所となる体育館などで体験ができるとより良いでしょう。
- ② **ポイント**：スリッパの底が汚れたときは、新聞紙を交換すれば衛生的に使うことができることを伝えます。



▶ まとめ

- ① 災害時にはダンボールスリッパのほか、新聞紙だけで作るスリッパなども活用できることを教えます。※ホームページで検索すると、身近にある物で作成できるいろんなスリッパの作り方が出てきますので、参考にしてください。
- ② 避難所での生活で、他にどんなことが困るか、どのような備えが必要かなどを話し合ってもらい、出た意見を発表してもらいます。



▶ プログラムの展開例

- ① 様々な困難を創意工夫で乗り越える力を養うために、最初は作り方を提示せず、まず自分たちで考えて作ってもらっても良いでしょう。
- ② 地域の防災訓練での避難所体験などに合わせて、実際にダンボールスリッパを作って体験してもらえば、より実践的なプログラムになります。
- ③ メンバーに事前にダンボールスリッパ作りの指導を行い、地域の防災訓練でこの技術や知恵を地域住民に教える役割を担わせると効果的です。



ダンボールスツールづくり

プログラムのねらい

避難所（体育館）は床が冷たい場合が多く、座る場所があると助かります。このような状況でも身近にあるダンボールを利用して、簡易的なスツール（座椅子）を作る方法を教えます。

実施の目安

| 難易度 | 時間 | 場所 | 参加人数 | スタッフに求められるもの |
|-----|------|-------|------|--------------------------|
| ★ | 20分～ | 屋内／屋外 | 数人～ | 特になし ※事前にプログラムを確認しておく |

ポイント

- ▶ 避難所にあるダンボール箱を再利用して、簡単にスツールを作る方法を教えます。災害時でも資源を有効活用する知恵を学びます。
- ▶ ダンボールの折り方や組み方に工夫を凝らし、一定の重量を支えられるスツールの作り方を指導します。



使用するもの

| 準備品 | 数 | 備考 |
|--------------------------------------|-----|-----------------------|
| <input type="checkbox"/> 段ボール箱 | 必要数 | 水2L×6本入りの段ボール箱のサイズが最適 |
| <input type="checkbox"/> ダンボールカッター | 必要数 | なければ、カッターでも可（安全に配慮） |
| <input type="checkbox"/> スツールの作り方シート | 必要数 | 参考資料のシートを印刷して使用 |

実施内容

▶ 震災時の状況説明

- ① 写真などの資料を見せながら、阪神・淡路大震災を事例にして、避難者が一緒に生活する避難所の困難な状況に関して説明します。
- ② 避難所の床面での生活は足腰に負担がかかるため、ダンボールなどで作ったスツールが役に立つことを紹介します。

▶ ダンボールスツールづくり

- ① スツールの作り方を説明しながら、一緒にダンボールスツールを作成します。
- ② **ポイント**：作成する段ボール箱の厚さやサイズ・形の違いによって、スツールの強度に違いがあるかを調べてみましょう。またどのような段ボール箱がスツールに適しているか、話し合ってみましょう。



▶ ダンボールスツールを使用

- ① 作成したダンボールスツールの使い心地を体験します。実際に避難所となる体育館などで体験ができるとより良いでしょう。
- ② **ポイント**：ダンボールスツールを脚にして天板（ダンボール板など）を載せるとテーブルになるアイデアを伝え、テーブルを作ってみましょう。



▶ まとめ

- ① 災害時の避難所では、このようなダンボールスツールのほか、ダンボールで作る間仕切りやベッドなどが役に立つことを伝えます。※ホームページで検索すると、ダンボールで作成できる様々な知恵が出てきますので、参考にしてください。
- ② 避難所での生活で、他にどんなことが困るか、どのような備えが必要かなどを話し合ってもらい、出た意見を発表してもらいます。



▶ プログラムの展開例

- ① 様々な困難を創意工夫で乗り越える力を養うために、最初は作り方を提示せず、まず自分たちで考えて作ってもらっても良いでしょう。
- ② 地域の防災訓練での避難所体験などに合わせて、実際にダンボールスツールを作って体験してもらえば、より実践的なプログラムになります。
- ③ メンバーに事前にダンボールスツール作りの指導を行い、地域の防災訓練でこの技術や知恵を地域住民に教える役割を担わせると効果的です。



ポリ袋ポンチョづくり

プログラムのねらい

災害時にも、突然の雨や悪天候に見舞われることがあります。身近にあるポリ袋を利用して、雨から身を守るための簡易ポンチョを作る方法を教えます。

実施の目安

| 難易度 | 時間 | 場所 | 参加人数 | スタッフに求められるもの |
|-----|------|-------|------|--------------------------|
| ★ | 20分～ | 屋内／屋外 | 数人～ | 特になし ※事前にプログラムを確認しておく |

ポイント

- ▶ 災害時においても比較的入手しやすいポリ袋を使用し、誰でも簡単にポンチョを作れるアイデアを伝えます。
- ▶ ポリ袋ポンチョづくりを通して、避難時や屋外での活動時には防水対策をすることで、体温の低下を防ぐことが大切であることを教えます。



使用するもの

| 準備品 | 数 | 備考 |
|------------------------------------|-----|-----------------------------------|
| <input type="checkbox"/> ポリ袋 | 必要数 | ～低学年45L、高学年～70Lのサイズを目安に |
| <input type="checkbox"/> はさみ | 必要数 | |
| <input type="checkbox"/> 油性マジック | 必要数 | 切り取り箇所をマジックで書く場合 |
| <input type="checkbox"/> 動画を再生する機材 | 必要数 | 「つくってまろう」の作り方動画を再生（スマートフォンなどでも可能） |

実施内容

▶ 震災時の状況説明

- ① 写真などの資料を見せながら、災害時において、突然の雨や悪天候に見舞われ、体が濡れてしまうことによって体温が低下してしまう危険性を伝えます。
- ② 身の回りにあるポリ袋を活用して、雨から身を守るポンチョが作れることを教えます。またポンチョは防寒や防塵にも役立つことを伝えます。

▶ ポリ袋ポンチョづくり

- ① ポリ袋に切り込みを入れる。
- ② 袋を羽織り、前で結ぶ。
- ③ **ポイント**：NHK「つくってまろう」の作り方動画を見せながら、作成すると良いでしょう。 [参考資料\(つくってまろう\) P58](#)



▶ ポリ袋ポンチョを使用

- ① 作成したポリ袋ポンチョを着てみて、使い心地を体験します。
- ② **ポイント**：ポリ袋のサイズや切り込みを入れる箇所によって、ポンチョの形が変わってきます。自分にとって最適なポンチョを考えて、作り直してもらっても良いでしょう。



▶ まとめ

- ① 災害時にはこのようなポリ袋ポンチョのほか、ポリ袋を使ってトイレを作ったり、水を運んだり、様々な活用ができることを伝えます。※ホームページで検索すると、ポリ袋を活用するさまざまなアイデアが出てきますので、参考にしてください。
- ② 避難所での生活で、他にどんなことが困るか、どのような備えが必要かなどを話し合ってもらい、出た意見を発表してもらいます。



▶ プログラムの展開例

- ① 様々な困難を創意工夫で乗り越える力を養うために、最初は作り方を提示せず、まず自分たちで考えて作ってもらっても良いでしょう。
- ② メンバーに事前にポリ袋ポンチョ作りの指導を行い、地域の防災訓練でこの技術や知恵を地域住民に教える役割を担わせると効果的です。



クロスロード

プログラムのねらい

災害への備えや災害後に起こる様々な問題を、自らの問題として考えます。また、他の人のさまざまな意見や価値観をみんなで共有します。

実施の目安

| 難易度 | 時間 | 場所 | 参加人数 | スタッフに求められるもの |
|-----|------|----|------|--------------------------|
| ★★ | 40分～ | 屋内 | 5人/班 | 特になし ※事前にプログラムを確認しておく |

ポイント

▶ 問題に正解はなく、ゲームの勝負が大切なのはではありません。問題に対して自分がなぜイエスもしくはノーを選んだのか、また他の人はどうしてイエスもしくはノーを選んだのかを知り、置かれた状況の中で参加者によっていろいろな意見や価値観があることを知ってもらうことが大切です。



使用するもの

| 準備品 | 数 | 備考 |
|---------------------------------------|--------|-----------------|
| <input type="checkbox"/> 問題カード | 1セット/班 | 問題をスライドで表示しても良い |
| <input type="checkbox"/> イエスカード・ノーカード | 1枚ずつ/人 | プレイヤーの人数分を用意 |
| <input type="checkbox"/> 座布団カード(青) | 1セット/班 | グループの机の中央に山にします |
| <input type="checkbox"/> 座布団カード(金) | 1セット/班 | グループの机の中央に山にします |

※クロスロードは、京都大学生協 (<https://www.u-coop.net/kyodai/crossroad/crossroad.html>) で販売しています。

実施内容

▶ 事前準備

- ① **グループ**：1グループ5人を基本とします。多数派と少数派を確認するため、なるべく奇数人数になるようにしてください。グループ数は人数に応じて何グループでも可能です。
- ② **会場**：グループで話し合いができる机と椅子を用意します。机の中央にカードを配置しておきます。

▶ クロスロードの説明

- ① **自己紹介**：各テーブルに5人つき、参加者が自己紹介をします。
- ② **ルール説明**：各人にイエスカードとノーカードを配り、ルール説明を行います。
 - ・ゲームは問題カードとイエスカード・ノーカード各1枚ずつのカードを使って行います。
 - ・プレイヤーは1人ずつ順番に問題カードを読み上げます。
 - ・カードが読み上げられるごとに、プレイヤーは全員読み上げられたカードの内容について、自分の意見がイエスか、ノーかを考えます。
 - ・自分の意見がイエスならイエスカードを、ノーならノーカードを裏に向けて、自分の机の前に置きます。
 - ・グループの全員がカードを置いたら、一斉にカードを表に向けます。
 - ・表向きになったカードを確認して、多数派のプレイヤーが得点を表す青い座布団を手に入れることができます。
 - ・問題カードをすべて読み終えた時点で、最も多くの座布団を持っている人が「勝ち」となります。
 - ・グループの中でイエスカードもしくはノーカードを出したのが「1人だけ」の場合には、その人が金座布団をもらえます。この場合、他の人はたとえ多数派であっても座布団はもらえません。青座布団と金座布団は同じ1ポイントです。

▶ クロスロードの実施

- ① 問題カードを読み上げ、問題に対して各人がイエスかノーを決め、イエス・ノーカードを裏返してテーブルに置きます。
 - ・問題を読み上げる人を決めて、問題を読み上げる係に決まった人は、好きな問題を選び、グループ全員に問題が聞こえるように大きな声で読み上げてください。
 - ・各グループで出題された問題に対して、自分の意見がイエスなら「イエスカード」を、ノーなら「ノーカード」を選び、自分の机の前に裏向きにして出してください。
- ② 裏返して置いた「イエス」「ノー」のカードをオープンし、ルールに従って金・青の座布団を配布します。
 - ・全員で一斉にカードを表にします。イエス・ノー、どちらが多数派かを確認します。多数派の人は青座布団を1枚もらいます。一人だけの意見があった場合は、その人だけ金座布団を1枚もらいます。
- ③ 各人が「イエス」、「ノー」を選んだ理由を話し合う。
 - ・今の問題でなぜ自分がイエスを出したのか、またはノーを出したのか、グループ全員で他の人がどのような判断をしたのか意見交換をします。参加者には「自分と異なる意見でも否定しない」ことを守ってもらいましょう。
- ④ 次の問題カードへ移り、最後の問題カードが終わるまで各班で進めます。

▶ まとめ

- ① 座布団の数を数え、誰が一番多かったか、誰が一番少なかったかを確認します。
- ② なぜそのような結果になったのかをみんなで話し合います。また、金座布団を持っている場合には、なぜ金の座布団がとれたのかを各グループで話し合います。
- ③ また、問題の中で、これはすごく迷ったという問題はなかったか、これはすぐに答えが決まったといった問題がなかったかなどについて、グループのみんなで話し合います。
- ④ 最後にグループごとにどのような意見が出たか、全員で共有します。

災害時のクッキング体験

プログラムのねらい

災害時のライフラインが使用できなくなった状況を想定し、水道・電気・ガスを使わずに調理するアイデアやレシピを学びます。

実施の目安

| 難易度 | 時間 | 場所 | 参加人数 | スタッフに求められるもの |
|-----|------|-------|------|--------------------------|
| ★★ | 60分～ | 調理室など | 数人～ | 特になし ※事前にプログラムを確認しておく |

ポイント

- ▶ 大きな災害が起きてライフラインが止まってしまったときに、身近にある物を使うなどして水を節約し調理するアイデアを教えます。
- ▶ ライフライン（水道・電気・ガス）が使用できないときでも作ることができる調理法や、缶詰や乾物などを使ったレシピを教えます。



使用するもの

| 準備品 | 数 | 備考 |
|----------------------------------|-----|-----------------------|
| <input type="checkbox"/> ポリ袋 | 必要数 | 高密度ポリエチレン（耐熱）でできているもの |
| <input type="checkbox"/> キッチンバサミ | 必要数 | |
| <input type="checkbox"/> カセットコンロ | 必要数 | |
| <input type="checkbox"/> なべ | 必要数 | |
| <input type="checkbox"/> 非常食 | 必要数 | |

実施内容

▶ 災害時のクッキング術

- ① 災害が起きて水道も電気もガスも使えなくなると、いつものような料理ができなくなってしまうことを説明します。
- ② 次に、ライフラインのない状況での調理に役立つ道具や、水を節約する調理方法を説明します。

▶ 調理実習

- ① 以下のレシピなどを参考に、調理します。
- ② できれば事前に作った紙食器に配膳し、食事をします。紙食器だけでなく、お皿にラップを敷いて、料理を盛りつけても良いでしょう。
- ③ 調理方法や味の感想を伝え合い、楽しく和やかに食事をします。また、サンプルとして用意しておいた非常食を、試食してもらいます。普段食べる機会のない非常食の味について、話し合います。



▶ 乾物サラダづくり

| 材料4人分 | 数 | 備考 |
|------------------------------|-----|-------------------------|
| <input type="checkbox"/> 乾物 | 必要量 | 切り干し大根30g、乾燥わかめ大4、棒寒天1本 |
| <input type="checkbox"/> 調味料 | 必要量 | 酢大2、醤油小1、ごま油小1、塩昆布適量 |
| <input type="checkbox"/> その他 | 必要量 | ホールコーン40g、白ごま大1、焼海苔2枚 |

- ① 食べやすく切った切干し大根をビニール袋に入れ、ひたひたに水を加えて全体をなじませる。ビニール袋の空気を抜いて口をしぼり、5分ほどおいて戻す。
- ② 切干し大根と同様に、別のビニール袋でちぎった棒かんてんとわかめを戻す。
- ③ 上記のビニール袋に穴をあけて余分な水分を絞り出し、別のビニール袋にまとめて調味料と塩昆布を加える。ホールコーンや白ごまを加え、海苔は最後にもんで加え、混ぜ合わせて完成。



▶ ポリ袋炊飯

| 材料2人分 | 数 | 備考 |
|------------------------------|-------|---------------------|
| <input type="checkbox"/> 米 | 1合 | 無洗米 |
| <input type="checkbox"/> 水 | 200cc | |
| <input type="checkbox"/> その他 | 必要量 | 缶詰やさつまいもなど炊き込みご飯の具材 |

- ① 米と水、炊き込みご飯の具材をポリ袋に入れます。空気を追い出し、袋の口を閉じます。
- ② 袋が漬かる大きさの鍋にたっぷりの水と袋を入れ、①を火にかけます。沸騰してから20分茹でた後、そのまま10分蒸らして完成。
- ③ **ポイント**：普通のお米を使う場合は、1時間給水すれば、臭さをあまり感じません。



ハザードマップを用いた DIG

プログラムのねらい

自分たちの住む地域のハザードマップから、災害が発生したときに、家庭や学校周囲の危険箇所や被害予測について知り、安全な避難行動について考えます。

実施の目安

| 難易度 | 時間 | 場所 | 参加人数 | スタッフに求められるもの |
|-----|------|----|----------|--------------------------|
| ★★★ | 60分～ | 屋内 | 6人程度 / 班 | 特になし ※事前にプログラムを確認しておく |

ポイント

- ▶ DIG (ディグ) は、参加者が地図を使って「災害を理解し、まちについて探求する防災訓練です。自由にかつ活発に意見を交換できる雰囲気づくりが大切です。
- ▶ DIG を通じて学習したことを、家に持ち帰って、家族で話し合うように促します。



使用するもの

| 準備品 | 数 | 備考 |
|---------------------------------------|--------|-----------------------|
| <input type="checkbox"/> 地域全体が入った白地図 | 1枚 / 班 | 国土地理院 HP などから入手可能 |
| <input type="checkbox"/> ハザードマップ | 1枚 / 班 | くらしの防災ガイドや神戸市 HP から入手 |
| <input type="checkbox"/> マジック (複数色) | 1組 / 班 | 実施内容に応じて色を決めておく |
| <input type="checkbox"/> ドットシール (複数色) | 1組 / 班 | 実施内容に応じて色を決めておく |
| <input type="checkbox"/> 付箋紙 (複数色) | 1組 / 班 | 2色以上がのぞましい |

実施内容

▶ 事前準備

- ① 地域全体が入った白地図を大きく (A3 や A4 を貼り合わせるなどにより、A2 以上となるのが望ましい) 印刷し、各班のテーブルの中央に配置します。
- ② ハザードマップとマジック、ドットシール、付箋紙をテーブルに配置します。



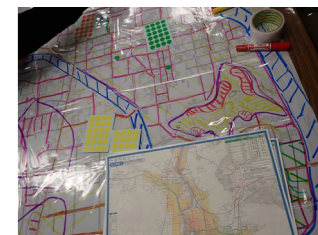
▶ 自分たちのまちについて知ろう

- ① 地域の構成を把握する (以下は一例)
 - ・ 河川、池、用水路などを青色でなぞる
 - ・ 大きな道路を黄色でなぞる (道路の勾配がある場合、その方向を矢印で記入)
 - ・ 狭い道路をピンク色でなぞる
 - ・ JR、私鉄などの鉄道を黒色でなぞる
 - ・ 田畑を黄色でなぞる
 - ・ 広場・公園を緑色でなぞる
- ② 地域の物的資源を把握する (以下は一例)
 - ・ 避難所、緊急避難場所や災害時の拠点となる場所に緑色のドットシールを貼る
 - ・ みんなにとって防災で役立つ施設や場所 (防災資機材倉庫、コンビニ、ホームセンター、消火栓、消火器、防火水槽、消防署、消防団詰所、警察署、交番、病院、公衆電話、公民館、集会所、学校、公園など) に青色のドットシールを貼る



▶ ハザードマップを見て、被害を想像しよう

- ① 被害が想定される場所を把握する (以下は一例)
 - ・ ハザードマップの浸水想定にならって、想定浸水深に応じた各色でエリアを囲む
 - ・ ハザードマップの土砂災害警戒区域にならって、土砂災害種別に応じた色でエリアを囲む (レッドゾーンは赤で、イエローゾーンは黄で塗る)
 - ・ まちの中で、過去に災害が発生した箇所、災害時に危険が想定されるところに赤色のドットシールを貼る (蓋や柵のない側溝や用水路、溢水しそうな橋上、アンダーパス、地下道など)
 - ・ 付箋紙に赤色のドットシールを貼った箇所の内容を記載し、地図上に貼ります。



▶ 予測した被害に対し、軽減するための取組について考えよう

- ① 災害に備えて、被害軽減につながる取り組みについて話し合います。
 - ・ 要配慮者 (高齢者・外国人など) にどのように働きかけができる?
 - ・ 地域住民の防災意識は今ままで十分? もっと伝えておくべきことはないか?
 - ・ 災害に備えて地域で取り組むことや災害発生時に自分たちにできることは何がある?
- ② 話し合ったことをグループごとに発表し、出た意見を共有します。



防災まちあるき / 防災マップづくり

プログラムのねらい

自らの視点でまちを探索し、自分の住むまちをよく観察することによって、災害への備えや身近な危険について考え、気づきを得ます。

実施の目安

| 難易度 | 時間 | 場所 | 参加人数 | スタッフに求められるもの |
|-----|------|-------|----------|--------------------------|
| ★★★ | 90分～ | 屋外と屋内 | 6人程度 / 班 | 特になし ※事前にプログラムを確認しておく |

ポイント

- ▶ 普段は気づかなくても、注意して見ると身近な場所には様々な危険があることを理解してもらいます。
- ▶ 地域には、防災倉庫など災害時に役立つ施設などがたくさんあることを知り、どんな役割を果たすのか考えてもらいます。



使用するもの

| 準備品 | 数 | 備考 |
|---|--------|-----------------------|
| <input type="checkbox"/> 白地図（まちあるき用） | 1枚 / 班 | 国土地理院 HP などから入手可能 |
| <input type="checkbox"/> 白地図・模造紙（マップ作成用） | 1枚 / 班 | 白地図は大判印刷（A2以上） |
| <input type="checkbox"/> ハザードマップ | 1枚 / 班 | くらしの防災ガイドや神戸市 HP から入手 |
| <input type="checkbox"/> バインダー（まちあるき用） | 1個 / 班 | |
| <input type="checkbox"/> カメラ（まちあるき用） | 1組 / 班 | |
| <input type="checkbox"/> マジック（マップ作成用・複数色） | 1組 / 班 | 6色以上がのぞましい |
| <input type="checkbox"/> ドットシール（マップ作成用・複数色） | 1組 / 班 | 4色程度 |
| <input type="checkbox"/> 付箋紙（マップ作成用・複数色） | 1組 / 班 | |
| <input type="checkbox"/> のり、セロテープ、はさみ | | |

実施内容

▶ 事前準備

- ① 実施日時を設定し、まちあるきの範囲を決めます。
- ② できれば探検するエリアの下見を行い、子どもたちが探す場所・施設・設備などを確認しておくとともに、交通量が多い場所など危険がないかをチェックして、安全を確認します。
- ③ 当日使用する物品・資料（まちあるきを行うエリアの白地図や文具、カメラなど）を準備します。



▶ 導入・事前学習

- ① ハザードマップを見ながら、まちあるきで確認する内容を話し合います。
 - ・ 災害時に危険なところ（土砂災害警戒区域、浸水想定区域など、池、川、海岸などの水辺、がけ・急斜面、ブロック塀など、せまい道路、看板、橋、歩道橋など）
 - ・ 防災上役に立つ人・物・場所（防災資機材倉庫、コンビニ、ホームセンター、消火栓、消火器、防火水槽、消防署、消防団詰所、警察署、交番、病院、公衆電話、公民館、集会所、学校、公園など）
- ② グループ分けをして、各グループでリーダー、地図係、写真係などの役割を決めます。



▶ まちあるき

- ① まちあるきを実施し、事前学習で話し合った、災害時に危険なところや防災上役に立つ人・物・場所を探して、その場所を白地図に書き込んでいきます。（以下はドットシール活用の一例）
 - ・ 災害時に危険が想定されるところに赤色のドットシールを貼る
 - ・ 避難所、緊急避難場所や災害時の拠点となる場所に緑色のドットシールを貼る
 - ・ みんなにとって防災で役立つ施設や場所に青色のドットシールを貼る
- ② まちあるきの途中で消防署やお店のの人にインタビューをして話を聞いてみるのもいいでしょう。



▶ 防災マップづくり

- ① 模造紙にまちあるきをしたエリアの白地図を拡大コピーして貼ります。
- ② 通った道順や発見したもの、聞いた話をみんなで確認しながら、模造紙に書き込んでいきます。付箋紙を利用してみんなの意見を整理するとやりやすいです。写真を撮っていれば、プリントした写真も貼りつけていきます。



▶ 発表とまとめ

完成した防災マップについて各班に発表してもらいます。まちあるき中に発見したことや気づいたこと、質問や疑問、感想などを自由に述べてもらいます。

ロープワーク

市民防災リーダーテキスト参照

プログラムを楽しくするポイント

ロープワーク（本結び・巻き結び・もやい結びなど）を習得したあと、競技形式で競い合うことにより、楽しくロープワークを身につけることができます。

実施の目安

| 難易度 | 時間 | 場所 | 参加人数 | スタッフに求められるもの |
|-----|------|-------|-------|--------------|
| ★ | 30分～ | 屋内／屋外 | 6人程／班 | ロープワークの技術 |

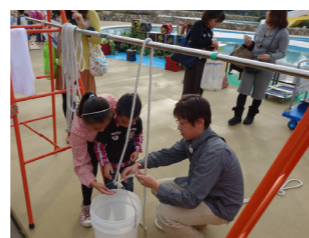
追加で用意するもの

| 準備品 | 数 | 備考 |
|-----------------------------------|-----|---------------------|
| <input type="checkbox"/> 脚立など | 必要数 | 物干し竿（1本）を固定するもの（2脚） |
| <input type="checkbox"/> 物干し竿など | 必要数 | ひもをかけてバケツを引き上げるための棒 |
| <input type="checkbox"/> バケツ | 必要数 | 巻き結びで持ち上げられる取手のあるもの |
| <input type="checkbox"/> ストップウォッチ | 必要数 | |

実施内容

▶ バケツを持ち上げるタイムを競おう！

- 脚立を2台立てて、脚立と脚立の間に棒を渡し、紐などで固定しておきます。
- 「本結び」で2～複数本のロープを1本に結びます。参加人数に応じてつなぐ本数を調整してください。
- 「本結び」で長い1本にしたヒモを棒の上を通して、棒の向こう側にロープを渡し、棒の向こう側で、ロープの端とバケツを「巻き結び」で結びます。
- バケツと反対側のロープの端を引っ張り、バケツを持ち上げるまでのタイムを競います。



▶ 巻き結び・本結び・もやい結びでみんなを繋ごう！

- グループ（3人以上）で一列に並びます。列の先頭には巻き結びができる棒を渡しておきます。ひもはグループ人数マイナス1となる数を用意します。
- 先頭の一人目が棒に「巻き結び」します、二人目～アンカー前の人までが「本結び」でひもを繋いでいきます。
- 最後のアンカーは、繋がったひもの先を自分の体（腰または足や腕など）に「もやい結び」をしてゴールです。ゴールまでのタイムを競います。



救急訓練（搬送法）

市民防災リーダーテキスト参照

プログラムを楽しくするポイント

毛布や竹竿を使った搬送方法を体験を通じて習得した後、ボールを落とさないように搬送する、チームでタイムを競うなどして、楽しみながら傷病者搬送の技を学びます。

実施の目安

| 難易度 | 時間 | 場所 | 参加人数 | スタッフに求められるもの |
|-----|------|-------|------|--------------|
| ★★ | 30分～ | 屋内／屋外 | 数人～ | 搬送の技術 |

追加で用意するもの

| 準備品 | 数 | 備考 |
|--|-----|-------------------|
| <input type="checkbox"/> 要救助者（訓練用人形など） | 必要数 | 人形がなければ代用できるものを準備 |
| <input type="checkbox"/> ボール、ペットボトル | 必要数 | 要救助者人形の上に載せるもの |
| <input type="checkbox"/> ストップウォッチ | 必要数 | |

実施内容

▶ 搬送方法の説明と体験

- 市民リーダーテキストを参考に、毛布と竹竿による応急担架の作成方法を説明します。毛布の端を丸めて持ち手にして担架にする方法や、徒手での搬送方法なども説明しても良いでしょう。
- 訓練用人形などを使って、実際に搬送方法を体験してもらいます。※誰かが傷病者役になり搬送することもできますが、その場合は十分安全確認を行って実施して下さい。



▶ 搬送タイムトライアル

- 搬送方法を習得した後、担架を作成するところからスタートし、ゴール地点まで訓練用人形などを搬送するタイムをチームで競います。
- 安全に搬送することが前提であることを伝え、訓練用人形などにボールやペットボトルを載せ、搬送中に落とってしまうと減点または失格になるというルールを追加します。
- チームごとにタイムを計測し、順位を競います。複数の搬送方法を実施し、合計タイムを競っても良いでしょう。



救急訓練 (ケガの対処)

市民防災リーダーテキスト参照

プログラムを楽しくするポイント

包帯や三角巾などがなくても、身近にある物を使って応急手当を行う方法を体験してもらいます。どんな物を、どう工夫すれば活用できるか考えながら、知恵と技術を学んでもらいます。

実施の目安

| 難易度 | 時間 | 場所 | 参加人数 | スタッフに求められるもの |
|-----|------|-------|------|--------------|
| ★★ | 30分～ | 屋内/屋外 | 数人～ | 応急手当の技術 |

追加で用意するもの

| 準備品 | 数 | 備考 |
|---------------------------------------|-----|--------------------|
| <input type="checkbox"/> 大判ハンカチ、ネクタイ | 必要数 | ハンカチは1辺が50センチ以上のもの |
| <input type="checkbox"/> ビニール袋 | 必要数 | 手袋代わりにできるもの |
| <input type="checkbox"/> 折り畳み傘、新聞紙・雑誌 | 必要数 | 副子代わりにできるもの |
| <input type="checkbox"/> レジ袋 | 必要数 | 腕を吊れる程度の大きさのもの |

実施内容

▶ 応急手当の説明と体験

- ① 市民リーダーテキストを参考に、ガーゼや三角巾を用いた止血法と副子固定法の説明を行った後、身近にある物を使って、止血や骨折の手当を行う方法を考えてもらい、出た意見を発表してもらいます。
- ② 身近にある物を活用した応急手当の方法を説明した後、ペアで実践してもらいます。身の回りのもので応急手当ができることを学び、普段から大判ハンカチを持つなど、日頃から防災の意識を持つことが重要であることを伝えます。

▶ 直接圧迫止血法

- ① 感染を防止するために、できるだけビニール袋などを使用し、手を覆います。
- ② 清潔なハンカチなどを傷口に当て、手で圧迫します。
- ③ ハンカチを帯状にして上から巻きます。このときに、結び目が傷に当たらないように注意します。



▶ 骨折の応急手当

- ① 折れた骨を支えるための副子になるもの（折りたたみ傘など）を用意します。
- ② 折れた骨の両側の関節と副子を、ハンカチなどで結び固定します。
- ③ ビニール袋の横を切り、固定した腕を首からつります。
- ④ 安定させるために、つり下げているレジ袋をネクタイなどで胸にしばりつけます。



参考資料

〇〇ジュニア防災チーム規約（例）

（目的）

第1条 この防災チームは、防災に関することを学び、体験し、正しい防災知識や考え方を身につけるとともに、活動を通じてお互いを尊重しつつ自律的に行動できる地域防災の担い手に育つことを目的とする。

（名称）

第2条 この防災チームの名称は、「〇〇ジュニア防災チーム」と称する。

（事務局）

第3条 このチームの事務局は、神戸市立〇〇中学校に置く。

（組織）

第4条 このチームは、神戸市立〇〇中学校の生徒のうち、活動に参加を希望する者をもって組織する。

（事業）

第5条 このチームは、第1条の目的を達成するために次のことを行う。

- (1) 防災に関する訓練を行なうこと。
- (2) 防災に関する学習を行なうこと。
- (3) 地域の防災訓練に参加すること。
- (4) その他

（役員）

第6条 このチームに次の役員を置く。なお、会長及び副会長は〇〇防災福祉コミュニティの会長及び副会長が担うものとする。

- (1) 会長1名
- (2) 副会長2名
- (3) 指導者若干名

（役員の任期）

第7条 役員の任期は、〇〇防災福祉コミュニティの会長及び副会長の就退任と同じとする。

（役員の任務）

第8条 会長は、チームを代表し、チームを統括する。2副会長は、会長を補佐する。3指導者は、日頃のチーム活動を指導する。4その他、必要に応じて神戸市立〇〇中学校及び神戸市〇〇消防署と連携して活動を指導する。

（総会）

第9条 1 総会は、チーム員全員でもって構成し、最高決議機関とする。

2 総会は、定期及び臨時総会とする。

- (1) 定期総会は、年1回行なう。定期総会は、入団式と同時に開催する。
- (2) 臨時総会は、必要に応じて行なう。

3 総会は、次のことを行う。

- (1) 年間の活動計画の承認
- (2) 予算、決算の承認
- (3) 役員承認
- (4) 規約の改正
- (5) その他必要事項の審議

4 総会は、会長が招集し、副会長が議長となる。

（予算）

第10条 このチームの経費は、〇〇防災福祉コミュニティの活動費から捻出する。ただし、必要に応じて各地域団体に支出を求める。

附則

この規約は、令和〇〇年〇〇月〇〇日から施行する。

令和〇〇年度 〇〇防災ジュニアチーム年間活動計画表

| 研修日 | 研修名 | 内容 | 場所 | 指導 |
|-------|----------------------|--------------------------------------|----------|-----------------|
| 6月〇日 | 任命式 | 中学校全体朝礼にて (放送室から各教室へ中継) | 〇〇中学校 | 地域・学校 |
| 7月〇日 | 防災研修 | 規律訓練／初期消火訓練 | 中学校校庭 | 地域・消防 |
| 8月〇日 | 夏祭り準備支援 | 主に提灯の取り付け | 〇〇公園 | 地域 |
| 8月〇日 | 夏祭り本番支援 | 開会式での吹奏楽の演奏 | 〇〇公園 | 地域 |
| 9月〇日 | 福祉研修 | 災害時高齢者・要援護者（認知症の方）への対応 | 地域福祉センター | 地域・あんしんすこやかセンター |
| 9月〇日 | 全国少年消防クラブ交流大会 | 〇〇市で開催 (9月〇日～〇日) | 〇〇アリーナ | 地域 |
| 10月〇日 | 秋祭り | 応急担架搬送訓練 初期消火訓練 紙食器、スリッパの折り方指導 | 〇〇公園 | 地域・消防 |
| 11月〇日 | 防災指導 | 児童館のこどもたちへの防災教育 | 〇〇児童館 | 地域・児童館 |
| 12月〇日 | 防災施設見学研修 (総合防災訓練) | 自治会参加の防災訓練と体験学習 | 市民防災センター | 地域・消防 |
| 1月〇日 | 消防出初式参加 | 地域全体で行う災害シミュレーション | メリケンパーク | 地域・消防 |
| 2月〇日 | 防災訓練 (ブロック防災訓練) | 救急救命訓練 (地域見守る会関係者と合同実施) | 地域福祉センター | 地域・FAST |
| 3月〇日 | 防災研修・修了式 | 一年の研修まとめ | 地域福祉センター | 地域・消防 |

令和〇〇年度 〇〇防災ジュニアチーム
第〇〇期生 隊員募集

〇〇防災福祉コミュニティからの要請を受け、若い力が災害時に自助、共助のもとになるように「〇〇中学校防災ジュニアチーム」第〇〇期生隊員（〇〇中学校1年生、2年生）を募集します。

活動内容は、防火・防災リーダーとして1年間任命し、消火訓練、救急訓練、救出・救助訓練など、体験型の防災訓練を実施することにより、災害時に必要な知識及び技能を習得し、総合訓練への参加や、学校での防災学習、避難訓練などのリーダーとしての活動を行います。

今年度は6月から3月までの期間で研修や訓練を行います。〇〇防災福祉コミュニティが主催しますが校区は問いません。〇〇中学校の1年生、2年生ならどなたでも参加できます。研修や訓練には消防署や消防団の皆様がご指導くださり、防災福祉コミュニティのメンバーと一緒に活動します。

学校生活に支障のないプログラムを考えていく予定です。ぜひ、興味のある方は申し込んでください。

◇応募に関する予定（校内）

6月〇日までに担任の先生に申し出てください。（興味のある人も）

6月〇日 10時～ 希望者説明会 〇〇中学校図書館

※募集人員は、1年生、2年生合わせて10～20名を予定しています。

◇活動予定について

年間3～6回程度の活動を予定、部活動との調整可です。

| 活動時期 | 活動内容 |
|-----------|----------------|
| 7月下旬（夏休み） | 任命式 |
| 8～10月 | 防災学習 |
| 11月中旬 | ブロック防災訓練（〇〇公園） |
| 12月〇日・〇日 | 年末防災防犯パトロール |
| 1月〇日 | 防災施設見学 |
| 3月中旬 | 修了式 |

◇ご質問・お問い合わせ

防災福祉コミュニティ〇〇まで TEL 〇〇〇 - 〇〇〇〇 - 〇〇〇〇

.....切り取り線.....

〇〇防災ジュニアチームに参加します

名前 学年・組

保護者名

住所 電話番号

令和〇年〇月〇日

保護者様

〇〇防災福祉コミュニティ

〇〇防災ジュニアチーム結成に伴う写真及び映像使用の同意書（依頼）

この度は、〇〇防災ジュニアチームに加入していただき、誠にありがとうございました。

〇〇防災ジュニアチームの活動模様を写真及び映像にて撮影させていただき、〇〇防災ジュニアチームの活動情報発信を目的として、幅広く広報などに活用したいと考えております。

つきましては、〇〇防災ジュニアチームの活動における写真及び映像を、神戸市及び〇〇防災福祉コミュニティの広報印刷物など及び公式インターネット媒体（ホームページやSNSなど）、並びに神戸市及び〇〇防災福祉コミュニティが当該写真及び映像の使用が適切であると判断した外部メディアなど（新聞、テレビ、雑誌など）での利用（無償）について、ご了承くださいますよう、お願い申し上げます。

なお、ご了承いただける場合、下記必要事項にご記入のうえ、令和〇年〇月〇日（〇）までに〇〇へご提出くださいますよう、併せてお願い申し上げます。

担当：〇〇〇〇

TEL：〇〇〇 - 〇〇〇〇

E-mail: 〇〇〇〇@〇〇〇〇

〇〇〇〇宛

上記の内容に同意いたします。

令和 年 月 日

ご参加者氏名： _____

ご親権者（自署）： _____

ご連絡先（TEL）： _____

令和〇〇年度 〇〇公園防災ブロック訓練計画

▶日時 令和〇〇年〇〇月〇〇日（日）10時00分～11時30分

▶場所 〇〇公園

- ▶参加者
- 1 〇〇防災ジュニアチーム 8～9名
 - 2 防災士 〇〇氏
 - 3 〇〇防災福祉コミュニティなど 約60名
 - 4 〇〇消防署 4名

▶訓練内容 消火訓練、簡易担架作成訓練、段ボールスツールづくり、ロープ結索訓練、ロープ結索講習

| 時間 | 担当 | 内容 |
|-------|--------------|--|
| 9:00 | 全員 | ミーティング、会場設営説明（〇〇公園） |
| 9:05 | 全員 | 1) 自治会役員、防コミ、防災ジュニアチームの参加者で訓練会場の設営を実施する 2) 訓練参加者の検温、アルコール消毒、必要な方に水分補給用お茶、軍手の配置 3) 防災資機材⇒水消火器、簡易担架、結索用ロープ、アルファ米を各訓練場所に配置する |
| 9:10 | 訓練班長 | 各訓練班長は訓練の持場で随時消防職員より事前指導を受ける |
| | 消火訓練 | 消火班は水消火器による消火訓練の事前指導を消防職員より受ける ▶防災ジュニアチーム隊員指導により訓練を実施する |
| | 救出訓練 | 救出救助班は簡易担架作成及び搬送方法の事前指導を消防職員より受ける |
| | 段ボール椅子 | 段ボールスツール作成の事前指導を〇〇防災士より受ける ▶防災ジュニアチーム隊員指導により訓練を実施する |
| | 救助訓練 | ロープ結索及び利用方法の事前指導を〇〇防災士、消防職員より受ける ▶防災ジュニアチーム隊員指導により訓練を実施する |
| | 救護班 | 公園入口で実施する訓練参加者の検温などのチェック指導を受ける |
| | 生活班 | 非常食炊き出し訓練は、公園北側で訓練終了後参加者にアルファ米配布する |
| | 消防職員 | 消防職員による市民防災リーダーテキストなどの講話。（訓練時間により変更有） |
| | 広報担当 | 〇〇町内及び〇〇公園付近一帯をハンドマイクで訓練広報実施する |
| 10:00 | 司会 訓練説明 | 挨拶（自治会長、ふれまち会長、消防署） 消火訓練、救出救助訓練、〇〇防災士、ロープ結索訓練などを参加者が実践体験する |
| 10:10 | 訓練実施 | 1) 消火訓練⇒水消火器による初期消火訓練を実践体験する（15分） ▶防災ジュニアチーム隊員指導により消火器取り扱い訓練を実施する 2) 簡易担架作成訓練を実践体験する（10分） ▶簡易担架作成訓練は、参加者を5名1組に3組作り訓練指導する。 3) 段ボールスツールづくりを実践体験する（20分） ▶防災ジュニアチーム隊員指導により、段ボール箱を利用してスツールを作成します。 4) 救助訓練⇒ロープ結索訓練を実践体験する（15分） ▶防災ジュニアチーム隊員指導によりロープ結索訓練を実施する ※結索用PPロープを訓練開始時参加者に配布する |
| 11:20 | 訓練終了 終了挨拶 | 講評⇒消防署、〇〇防災士 自治会 会長 |
| 11:30 | 撤収 | 自治会役員、防コミで、設営資機材の撤収作業を実施し終了後解散。 |



▶ 防災福祉コミュニティ助成制度

防災福祉コミュニティが活動していくための費用を一部助成することにより、円滑な運営及び自主的な防災活動の推進を支援しています。この助成金はその用途により、次の3種類に分けられます。

運営活動費：会議費、防災組織の運営に必要な経費、防災活動に必要な経費（上限14万円/年）

提案型活動費：地域の状況に応じた提案型の活動を実施するための経費（上限20万円/年）

防災資機材整備助成：防コミが所有する防災資機材の更新、新たな取り組みに必要な防災資機材の整備にかかる経費の助成

※助成金によって条件や申請時期などが異なります。

詳細は神戸市ホームページをご覧ください。

<https://www.city.kobe.lg.jp/a10878/bosai/shobo/bokomi/about/bokomi4.html>



▶ ひょうご安全の日推進事業助成事業

ひょうご防災減災推進条例に基づき、阪神・淡路大震災の経験と教訓を発信し、安全・安心な社会づくりを推進するため、地域団体などの県民の皆さんによる、日々の生活の中で防災減災に取り組む「災害文化」を広める事業に対して支援されています。

※詳細はひょうご安全の日ホームページをご覧ください。

<https://19950117hyogo.jp/calendar/>



▶ BOKOMIサポーター制度

この制度は、防災福祉コミュニティからの要請に基づいて「BOKOMIサポーター」が地域に出向き、平常時における地域防災活動（防災訓練、防災研修など）の支援を行うものです。「BOKOMIサポーター」には、大学のボランティアグループや防災に関する専門的な知識を有する団体の方々に登録いただいております。

※詳細は神戸市ホームページをご覧ください。

<https://www.city.kobe.lg.jp/a10878/bosai/shobo/bokomi/activity/supporter.html>



▶ ふたば学舎「震災体験学習」

ふたば学舎では、阪神・淡路大震災の体験と“教訓”を継承するために、そして災害に遭遇したときに生き抜くための“知恵”を学ぶ震災体験学習を行っています。

※詳細はふたば学舎ホームページをご覧ください。

<https://futabasyo.jp/震災体験学習/>



「自分事」としての震災体験学習

1995年1月17日に阪神・淡路大震災が起き、神戸市長田区西側に位置する二葉小学校は多くの被災者を受け入れる避難所となりました。その二葉小学校を前身とする「ふたば学舎」では、周辺被災地の記憶を中心に、阪神・淡路大震災の記憶と教訓を次世代に伝えるための震災体験学習を実施しています。

※基本料金は1名あたり3,000円（17歳未満）です。2,000円（17歳以上）です。※別途入場料がかかります。※お申し込みは要予約です。※お申し込みは要予約です。※お申し込みは要予約です。

基本料金
17歳未満 3,000円
17歳以上 2,000円

お申し込みから実施までの流れは基本料には以下のようになります。

お申し込みの受付
お電話で申し込み状況を確認ください。ご希望多数の場合は、申し込み受付は高止まり。

お申し込みの受付
お電話で申し込み状況を確認ください。ご希望多数の場合は、申し込み受付は高止まり。

プログラムの作成
申し込み内容にもとづいて作成した学習プログラムを提出いたします。

プログラムの実施と確認
実施までにお電話等でご質問を承ります。内容を確認いたします。下記にも対応いたします。

震災体験学習の意義
被災地の歴史と文化を継承し、防災意識を高め、防災体験学習を実施いたします。

震災体験学習プログラムの一例をご紹介します。*詳細内容は申し込みの案内書をご覧ください。

校外学習や修学旅行生、職員研修や大学生、一般の観光旅行者
*1人あたり3,000円までの参加費がかかります。その他の参加についてはお問い合わせください。
*講習費の詳細はホームページ上の「基本料金」をご覧ください。

震災体験学習プログラムの内容（メニュー）
ご要望に応じて以下のメニューを組み合わせられたプログラムを実施いたします。*お時間もあります。

1. 阪神・淡路大震災スライド学習（所要時間：10分～20分）
2. 避難所体験（50分～90分）
3. 元小学校職員による講話（20分～60分）
4. 震災語り部体験（15分～60分）
5. 被災地体験（被災地の体験談、震災当時の体験談、復興まちづくりの取り組み）
6. 被災地のまち歩き（40分～90分）
7. 防災グッズ体験（30分～60分、防災グッズ体験の場合はおおよそ120分）
8. 防災グッズ体験（おおよそ15分）
9. 避難所スリッパづくり（おおよそ30分）
10. 防災グッズ体験（おおよそ60分）
11. 防災グッズ体験（おおよそ60分）
12. 災害復旧の体験（30分～60分）

【コースの組み合わせ、参加費の目安、お申し込みの仕方など】
*メニューは予告なく変更されます。

▶ NHK「つくってまろう」

2011年（平成23年）に発生した東日本大震災をきっかけに作られた、日本中の防災アイデアを集め、いざというときに役立つ防災アイデアの動画集です。段ボールを使った工作系のアイデアなど、動画でわかりやすく解説されており、プログラムの参考になります。

※詳細はNHK「つくってまろう」ホームページをご覧ください。

https://www3.nhk.or.jp/news/contents/bousai_tips/



すべて 身につけるもの 身につけるもの 身につけるもの 身につけるもの

ゴミ袋で防災グッズをつくる
ダンボールでスリッパをつくる
ポリ袋とタオルで枕をつくる
ポリ袋で三角巾をつくる
ゴミ袋で防水ポンプをつくる
ゴミ袋でポンチョをつくる
ペットボトルでライフジャケットをつくる
キッチンペーパーで簡易マスクをつくる
牛乳パックでスポンジをつくる

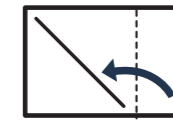
紙食器の作り方

● コップ型

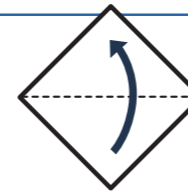
正方形にする▶



新聞紙を三角形に折る。折った三角形をひらく。



三角形の折りめのはしにあわせて、四角形に折る。（あまったところを切り離してもよい）



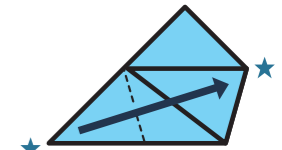
① はしとはしをあわせ、三角形に折る。



② ふちとふちをあわせ、折りめをつけもどす。



③ ★と★をあわせるように折る。



④ ★と★をあわせるように折る。



⑤ 上の三角形の部分折る。

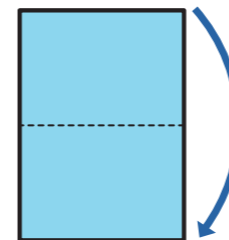


⑥ 反対側も同じように折る。

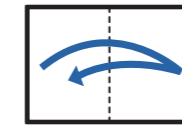


⑦ 上部を広げて形を整えたら、できあがり!

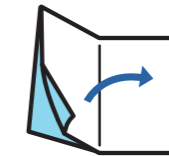
● ハコ型



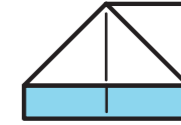
① 用紙をたて半分に折る。折りめをつけてもどす。



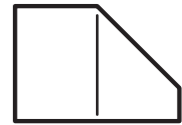
② さらに横に半分に折り、折りめをつけてもどす。



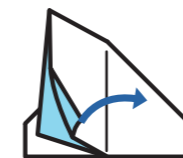
③ 左はしを三角形にひらく。



④ 三角をつぶす。



⑤ 裏返す。



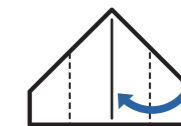
⑥ ③と同じようにひらいてつぶす。



⑦ 重なっている紙の上1枚を反対側にめくる。



⑧ 裏側も、⑦と同じようにめくる。



⑨ 重なっている紙の上1枚を、真ん中に向かって両側を折る。



⑩ 斜線部分を上に折る。



⑪ 反対側も、⑩と同じように折る。



⑫ 逆さまにして、上部を広げる。



⑬ できあがり!

ダンボールスツールの作り方

1



箱の底の面を、左、下、右、上の順番で重ねます。
上の面は、左の面の下に入れこみます。
角を内側に折っておくと、入れこみやすくなります。

2



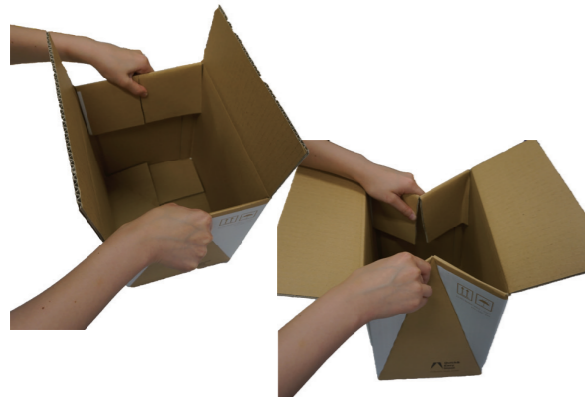
箱をひっくり返し、短いほうのふたに、中心から切りこみを入れます。反対側にも同じように切りこみを入れます。

3



②の切りこみ終点から底の両隅に向けて、2本の切り目を入れます。完全に切れないよう、力加減に注意します。反対側の面も同じようにします。

4



切りこみを入れたふたを、内側に折りこみます。
箱を立て、切りこみをいれた部分を内側に押し込みます。
切り目で折れて、写真のようなかたちになります。

5



長いほうの辺のふたを、両側からかぶせて、重ねます。

6



重ねた長いほうの辺のふたが浮かないよう、
両側に中央に向けて閉じるななめの切りこみを入れ、
真ん中の部分をしっかり内側に折り込みます。

7



台形なので安定する、スツールのできあがり。